

2-20-2 東照宮

元和 5 年（1619）金森第 3 代重頼は、高山城の中に東照権現社を勧請した。その後寛永 5 年（1628）、現東照宮境内地（本地堂の下方。西之一色村鴻巣の森尾崎と言った）に遷座した。これが東照宮の始まりである。

延宝 8 年（1680）には松泰寺宝珠院を別当とした。しかし、金森家転封後は松泰寺のみが残り、御宮跡の時代となる。

荒廃を嘆いた金森の子孫重任が神社の再建を志し、これに賛同した芝郡代が、東照宮を文化 15 年（1818）に、町人の協力を求めて再建した。以来、現在に至る。

大工棟梁は水間相模宗俊、彫刻は中川吉兵衛である。